



KUMAMOTO

GREEN Rotary-Club

The Weekly Bulletin

Kumamoto green rotary club district 2720 rotary international

2019~
2020年度
テーマ

国際ロータリー 「ロータリーは世界をつなぐ」 R.I. 会長 マーク・ダニエル・マローニー

地区方針 「さあ、ロータリーの大海へ漕ぎ出そう」

R.I. 2720 地区 ガバナー 瀧 満

熊本グリーンRC 「さあ、令和の大海へ漕ぎ出そう・新たな時代に」

熊本グリーンRC 会長 山下佳介



■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：山下佳介 ■幹事：本田悟士 ■会報担当：栗山義則
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

第1370回

2019-2020年度 第22回

令和2年1月27日

【例会】

1. 閉会・点鐘 18:30

「奉仕の理想」 (ロータリーソング)

2. 食事と交歓

来訪者紹介 (山下佳介 会長)

卓話者

キャリアコンサルタント 大久保 剛 様

友情の握手

会長スピーチ (山下佳介 会長)

先週 22 日水曜 14 時 30 分より第二回熊本市域 RC 会長幹事会がニューホテルにて開催されましたので参加してきました。1 時間の会議でメインは半期を終えてのそれぞれの 17 クラブ会長報告がありました。

今日はロータリーの友 12 月号にがん特集がありましたのでそれについてお話をしたいと思います。

現在がんは 2 人に 1 人いつかはがんになると言われています。

毎日約 1000 人の方ががんで亡くなっています。

私が保険業界なのでがん保険の現状を少し話したいと思います。

がん保険、昔は 1 日入院したら 1 万円とかの保障がメインでしたが現在は治療 形態の変化で入院日数が減ってきましたので、がんになったら 100 万円とかいう診断されたら出る保険が主流になってきました。個人の保険だとがんになって数百万円が限度の保険が殆どですが、法人契約だと 1 億円出る保険会社もあります。

昨年、法人保険の税制が大きく変わりお金が貯まる定期保険の損金性が殆ど無くなりましたが、1 つだけ良くなった事もあります。それがこのように 3 大疾病で一時金が出て尚且つ死亡保障もある終身保険が最高 60% 損金計上出来るようになりました。これまでは全額資産計上でした。ですので、私は法人契約で社長・役員様のがん・心筋梗塞・脳卒中になったら最高 1 億円出る保険をよく提案しています。宝くじを買うより保険に加入した方が 1 億円手にする確率は遥かに高いと思います。また 1 億円出ると思えば検診も積極的に行くと思いますので結果早期発見につながり死ななくてすむ可能性も非常に高くなると思います。



卓話予定

- 1/30 キャリアコンサルタント 大久保 剛 氏
- 2/3 カラーコーディネーター 佐藤 智恵 氏
- 2/10 「不登校の現実と通信制高校について」
ヒューマンキャンパス高等学校 教諭 中熊和典 氏

【熊本グリーンRC ホームページアドレス】 <http://www.kg-rc.com/>

幹事報告

(本田 悟士 幹事)

【例会変更・取り止め】

<例会変更>

【熊本西稜 RC】

2月6日(木)の例会は、熊本江南 RC 創立50周年式典のため、2月8日(土)16:30より、ザ・ニューホテル熊本にて行います。

【熊本江南 RC】

2月12日(水)の例会は、熊本江南 RC 創立50周年式典のため、2月8日(土)16:30より、ザ・ニューホテル熊本にて行います。

【熊本水前寺公園 RC】

2月26日(水)の例会は、親睦例会のため、日時と場所を変更して行います。

<例会取り止め>

定款第8条第1節に基づき、取り止め

【熊本西稜 RC】 2月10日(月)

祭日週のため、取り止め

*MU受付なし

【熊本菊南 RC】 2月12日(水)

定款第8条第1節に基づき、取り止め

*MU受付なし

【熊本水前寺公園 RC】 2月12日(水)

【熊本中央 RC】 2月14日(金)

出席報告

(長野 義文クラブ管理運営委員(出席担当長))

	会員総数	24名	出席率
1月27日	出席免除会員数	2名	50.00%
	計算上会員数	22名	
	出席会員数	11名	
1月13日	前回の出席会員数	名	休会
	メイクアップ数	名	
	修正出席会員数	名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
なし			



委員会報告

「ロータリーの友」1月号の内容紹介
報告者: 江上泰弘公共イメージ委員長

スマイル

(田中 純司 副委員長)

●山下 佳介 君、本田 悟士 君

- 1「本日の卓話者大久保剛様に心から感謝します。」
- 2「2人共、1月10日の誕生日でしたが先週、御礼のスマイルを忘れていましたので、遅れましたがありがとうございます。」

●上田 観一 君

- 1「キャリアコンサルタントの大久保剛様の卓話を楽しみにしていました。本日は宜しくお願い致します。」
- 2「ネパールの旅 コロナウイルスが心配です!!」

●福島 和見 君

「今日の受付の花がチューリップでもう春を感じますね!本日の卓話の大久保様宜しくお願い致します。」

●栗山 義則 君、長野 義文 君、江上 泰弘 君、大友 利行 君、田中 純司 君

「キャリアコンサルタントの大久保様、本日の卓話宜しく申し上げます。楽しみにしていました。インフルエンザが流行っています。充分注意して下さい。」

3. 例会プログラム

卓話者

キャリアコンサルタント 大久保 剛 氏
演題 「変革の仲での部下との接し方」



卓話者 大久保 剛 氏

4. 閉会・点鐘

トーストマスターズとロータリーの 新しい活動に参加する4つの方法

ロータリーのテリー・ペアードさんは、何十年もの間、人前で話すことを避けてきました。この恐怖心を克服しようと思ったペアードさんに一人の友人が紹介したのが、「トーストマスターズ」です。トーストマスターズを通じてペアードさんは、リーダーシップのスキルを磨きながら、人前で話す方法を学びました。

自身が経験したように、ほかの人のためにも成長の機会をつくりたいと考えたペアードさんは、「ボートランド・ロータリー・トーストマスターズクラブ」を発足。このクラブには、米国オレゴン州のボートランド・ロータリークラブの会員が所属しますが、一般の人でも参加できます。

「話し方を学び、リーダーシップスキルも磨きたいと考えている会員を支援したいと思い、このクラブを始めた」と話すペアードさん。「その成果は予想以上でした」

国際ロータリーは現在、トーストマスターズ・インターナショナルとコラボレーション関係を結び、ロータリーの会員が個人として、また職業人として成長する機会を提供しています。ロータリーの会員は、人前で話すためのヒント、動画、ポッドキャストなど、トーストマスターズが提供するサービスを利用できます。

このコラボレーションに会員やクラブが参加する方法をご紹介します。

1. 地元の特ーストマスターズクラブを訪れ、トーストマスターズについて詳しく学ぶ。トーストマスターズには、143カ国に16,800のクラブがあります。最寄りのクラブを探すには、クラブ検索をご利用ください。
2. トーストマスターズの会員をクラブに招待したり、講演してもらおう。
3. トーストマスターズの会員にクラブの奉仕活動に参加してもらったり、社交行事に出席してもらおう。
4. 地元のトーストマスターズ・クラブと今後の協力の機会について話し合う。

国際ロータリーはまた、ロータリーとロータリークラブの会員向けのリーダーシップとコミュニケーションに関するカリキュラムを作成しています。来年度、英語で入手可能となる同カリキュラムは、2021年までに、日本語を含む各国語で利用可能となります。

ボートランド・ロータリー・トーストマスターズでの体験と、トーストマスターズがクラブに与える恩恵についてペアードさんが寄稿したブログを「**ロータリーボイス**」でお読みください。

中核的価値観

リーダーシップ

多様性

親睦

奉仕

高潔性

尊重

卓越

ロータリー

トーストマスターズ

「未来の君主と会う」

グレン・アダムス 研究グループ交換 (GSE)

昨年春、85歳になられた日本の昭仁天皇（現上皇）が退位されたとき、40年前に皇居で謁見したときの記憶がよみがえってきた。

1978年4月、私はロータリーが派遣する6人の研究グループ交換に参加した。その後フィラデルフィア地域にある私たちの地区に日本から代表団が派遣される予定になっていた。日本でのロータリーの地位は高く、6週間の滞在中、私たちは一流のもてなしを受けた：宿泊は四つ星ホテル、豪華な食事、フロントフェンダーに小さな旗のついた黒いリムジンでの移動。農地や工場、東京の築地魚市場（当時は世界最大）、国会議事堂を見学した。昔ながらの船で江戸川下りをしたときには、そこで釣った魚をさばき、油で揚げた料理が昼食だった。最高裁判所では、判事が自分の法服を喜んで私たちに着させてくれた。相撲部屋では、ビールと魚2匹、ワカメ、ハマチの刺身、出汁、豆腐、餅、麺という典型的な力士の昼食をいただいた。

一番思い出深い遠足は、東京からの電車で始まった。集落や田園を走り抜け、山の近くまで来たところで、3台の黒タクに分乗。険しく曲がりくねった道を上った後、ケーブルカーに乗り換えて広大な杉の森を越え、青々とした芦ノ湖で下車。17世紀の船を模した遊覧船で湖を渡った。翌朝の日の出時には、雪を冠した富士山の、息を飲むような情景にうっとりした。

当時はまだ皇太子だった昭仁殿下（父上であった昭和天皇はその後11年間君臨された）との待望の謁見は、皇居内の松材パネルがほどこされた部屋で行われた。皇太子が入室されると、ロータリーのホストの方々が恭しくお辞儀をしたので、皇室マナーの速習講座のごとく、私たちもそれに倣った。昭仁殿下は無地のブルーグレイのスーツと白いシャツ、濃い色のネクタイ姿。英語は流暢だが言葉を慎重に選びながら、穏やかな口調でお話しになった。当時の私の日記にはこう書かれている。「私たちが年齢順に紹介されると、私たち一人ひとりの顔をまっすぐ、ひるまずに見据えられた」

私たちは、漆黒塗のテーブル2台の近くにあった赤い椅子に腰かけた。灰皿が4つ、皇室のマークの入ったマッチ箱、そして銀のトレイの上にたばこのケースが置かれていたが、謁見中に喫煙した人がいたかどうかは覚えていない。対話をしている間、召使いが菓子と緑茶をお盆で運んできたが、その度に皇太子殿下に直接顔を向けることなくお辞儀をした。日本の印象について殿下に尋ねられたので、日本人の礼儀正しさ、東京の清潔さ、見学した歴史スポット、食した日本食について話した。日記にはこう記されている。「皇太子は、終始ほとんど表情を変えることがなかった」

私たちがフィラデルフィアから来たことをご存知だった皇太子殿下は、自身が19歳だった1953年にフィラデルフィアを訪問された時の思い出話をしてくださった。日本人にとっての主な懸念は何だと思われるかと私が尋ねると、伝統、歴史、文化を保存しつつ、それを現代のトレンドやテクノロジーと結びつけることだとお答えになられた。

互いの幸運を祈り、さらにお辞儀をした後で、謁見は終了した。この対話にテーマがあったとしたら、それは現代において古来の慣習を維持すること、つまり、昭仁上皇が繰り返してお使いになった「調和」という言葉がふさわしいだろう。